

日蓮大聖人御書全集

ときどののにようぼうあまごぜんごしよ

富木殿女房尼御前御書

新版
1342
ゝ
1343

ときどののにようぼうあまごぜんごしよ

富木殿女房尼御前御書

こうあん

ねん

がつ

にち

さい

ときあま

弘安2年('79)

11月25日

58歳

富木尼

見

そうら

そうらう

はるかにみまいらせ候わねば、おぼつかなく候。

当時

楽

こと

そうら

昔

殊

とうじとてもたのしき事は候わねども、むかしはことに

侘

そうら

とき

養

そうら

わびしく候いし時よりやしなわれまいらせて候えば、こ

恩

重

思

そうらう

とにおんおもくおもいまいらせ候。それについては、

命

鶴

亀

幸

つき

勝

潮

満

いのちはつるかめのごとく、さいわいは月のまさりしおのみ

ほけきよう

祈

そうら

つがごとくところそ、法華経にはいのりまいらせ候え。

越

ごぼう

下

野

ぼう

もう

そう

伊予

殿

付

さては、えち後房・しもつけ房と申す僧をいよどのにつけ

そうろう

不便

当

たま

富木の

て候ぞ。「しばらくふびんにあたらせ給え」と、とき殿に

もう

たま

きようきようきんげん

は申させ給え。恐々謹言。

じゅういちがつにじゅうごにち

十一月二十五日

にちれん

かおう

日蓮 花押

ときどののようぼうあまごぜん

富城殿 女房尼御前

伊予ぼう

かくしよう

そうろう

ほうもん 聞

たま

いよ房は学生になりて候ぞ。つねに法門きかせ給い

そうろう

候え。